

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)については、数値の違いがほとんど認められなかったので、解析していない。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同・理解できないものの割合 (単位: %)

《勤務施設の属性》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答
	1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
A大学附属病院(242名)	82.2	8.3	3.3	6.2
B臨床研修病院(144名)	91.7	2.1	1.4	4.9
C臨床研修病院(189名)	91.5	3.2	3.2	2.1
D大学附属病院(235名)	91.1	3.8	1.3	3.8
E大学附属病院(407名)	92.1	2.9	3.2	1.7
無回答(23名)	60.9	8.7	0.0	30.4
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	4.0

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《勤務施設》	1-3	4-5
	賛同できる	賛同・理解できない
A大学附属病院(219名)	199	20
B臨床研修病院(135名)	132	3

$$\chi^2=6.564$$

(両側検定) P = 0.01596 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《勤務施設》	1-3	4-5
	賛同できる	賛同・理解できない
A大学附属病院(219名)	199	20
C臨床研修病院(179名)	173	6

$$\chi^2=5.390$$

(両側検定) P = 0.02413 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《勤務施設》	1-3	4-5
	賛同できる	賛同・理解できない
A大学附属病院(219名)	199	20
D大学附属病院(223名)	214	9

$$\chi^2=4.681$$

(両側検定) P = 0.03484 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《勤務施設》	1-3	4-5
	賛同できる	賛同・理解できない
A大学附属病院(219名)	199	20
E大学附属病院(387名)	375	12

$$\chi^2=10.172$$

(両側検定) P = 0.00215 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

A大学附属病院においては、他の施設とくらべて、有意に「賛同・理解できない」が多かった。
上記以外には有意な差を認めなかった。

(3) 卒後年数別(単位：%)

a) 単純集計

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2. 総合 診療に理 解のある 専門医	3. 将来 の総合診 療に含み	4. 総合 診療の概 念に賛同 できない	5. 総合 診療の概 念が理解 できない	6. その 他	無回答 [数(%)]
卒後1～2年(139名)	15.8	43.2	33.1	0.7	1.4	1.4	6(4.3)
卒後3～5年(175名)	9.7	59.4	25.1	0.6	2.3	2.3	1(0.6)
卒後6～15年(462名)	10.0	57.4	24.5	2.6	1.5	1.9	10(2.2)
卒後16年以上(356名)	5.6	63.5	16.6	1.1	3.4	3.9	21(5.9)
無回答(108名)	11.1	50.9	16.7	2.8	5.6	2.8	11(10.2)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

①「総合診療指向のもの」(1)vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について各年代相互に分析

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2-6. それ以外
卒後1～2年(133名)	22	111
卒後3～5年(174名)	17	157

$$\chi^2=3.116$$

(両側検定) P = 0.08560 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2-6. それ以外
卒後1～2年(133名)	22	111
卒後6～15年(452名)	46	406

$$\chi^2=4.051$$

(両側検定) P = 0.04704 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2-6. それ以外
卒後1～2年(133名)	22	111
卒後16年以上(335名)	20	315

$$\chi^2=13.023$$

(両側検定) P = 0.00052 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2-6. それ以外
卒後3～5年(174名)	17	157
卒後6～15年(452名)	46	406

$$\chi^2=0.022$$

(両側検定) P = 0.88439 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2-6. それ以外
卒後3～5年(174名)	17	157
卒後16年以上(335名)	20	315

$$\chi^2=2.453$$

(両側検定) P = 0.14894 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	1. 総合 診療指向	2-6. それ以外
卒後6～15年(452名)	46	406
卒後16年以上(335名)	20	315

$$\chi^2=4.431$$

(両側検定) P = 0.03767 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

卒後1～2年 vs. 卒後6～15年、卒後1～2年 vs. 卒後16年以上、卒後6～15年 vs. 卒後16年以上の間で、若い世代において「総合診療指向」のものが有意に多かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《卒後年数》	3. 将来 に含み	それ以外
卒後1～2年(133名)	46	87
卒後3～5年(174名)	44	130

$\chi^2=3.145$
(両側検定) $P=0.07849$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《卒後年数》	3. 将来 に含み	それ以外
卒後1～2年(133名)	46	87
卒後6～15年(452名)	113	339

$\chi^2=4.771$
(両側検定) $P=0.03494$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《卒後年数》	3. 将来 に含み	それ以外
卒後1～2年(133名)	46	87
卒後16年以上(335名)	59	276

$\chi^2=15.763$
(両側検定) $P=0.00010$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《卒後年数》	3. 将来 に含み	それ以外
卒後3～5年(174名)	44	130
卒後6～15年(452名)	113	339

$\chi^2=0.005$
(両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《卒後年数》	3. 将来 に含み	それ以外
卒後3～5年(174名)	44	130
卒後16年以上(335名)	59	276

$\chi^2=4.179$
(両側検定) $P=0.04793$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《卒後年数》	3. 将来 に含み	それ以外
卒後6～15年(452名)	113	339
卒後16年以上(335名)	59	276

$\chi^2=6.149$
(両側検定) $P=0.01453$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

卒後1～2年 vs. 卒後6～15年、卒後1～2年 vs. 卒後16年以上、卒後3～5年 vs. 卒後16年以上、卒後6～15年 vs. 卒後16年以上の間で、若い世代のほうが「将来、行っても良い」とするものが有意に多かった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同・理解できないものの割合 (単位: %)

《卒後年数》	1-3の合計 1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4と5の合計 4. 賛同できない 5. 理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
卒後1~2年(139名)	92.1	2.2	1.6	4(1.6)
卒後3~5年(175名)	94.3	2.9	2.3	10(1.9)
卒後6~15年(462名)	91.8	4.1	2.7	18(6.0)
卒後16年以上(356名)	85.7	4.5	3.7	9(8.3)
無回答(108名)	78.7	8.3	7.4	1(3.7)
全体(1240名)	89.3	4.2	5.3	7(18.4)

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《卒後年数》	賛同できる	賛同・理解できない
卒後1~2年(131名)	128	3
卒後3~5年(165名)	165	5

$$\chi^2=0.121$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	賛同できる	賛同・理解できない
卒後1~2年(133名)	128	3
卒後6~15年(443名)	424	19

$$\chi^2=1.095$$

(両側検定) P = 0.32386 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	賛同できる	賛同・理解できない
卒後1~2年(133名)	199	20
卒後16年以上(321名)	132	3

$$\chi^2=1.677$$

(両側検定) P = 0.21405 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	賛同できる	賛同・理解できない
卒後3~5年(165名)	165	5
卒後6~15年(443名)	424	19

$$\chi^2=0.593$$

(両側検定) P = 0.49726 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	賛同できる	賛同・理解できない
卒後3~5年(165名)	165	5
卒後16年以上(321名)	305	16

$$\chi^2=1.133$$

(両側検定) P = 0.35380 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒後年数》	賛同できる	賛同・理解できない
卒後6~15年(443名)	424	19
卒後16年以上(321名)	305	16

$$\chi^2=0.205$$

(両側検定) P = 0.72666 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

「賛同できる」「賛同・理解できない」でまとめると、どの年代間でも有意な差は認められなかった。

(4) 年齢別(単位：%)

a) 単純集計

《年齢》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
20代(248名)	13.3	49.6	31.9	0.4	1.6	1.6	4(1.6)
30代(519名)	9.8	57.6	24.1	2.3	1.9	2.3	10(1.9)
40代(300名)	6.0	63.3	17.0	2.3	2.7	2.7	18(6.0)
50代(108名)	8.3	63.9	11.1	0.9	3.7	3.7	9(8.3)
60代(27名)	7.4	44.4	33.3	0.0	3.7	7.4	1(3.7)
無回答(38名)	10.5	44.7	10.5	0.0	10.5	5.3	7(18.4)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

① 「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について各年代相互に分析

《年齢》	総合診療指向	それ以外
20代(244名)	33	211
40代(282名)	18	264

$$\chi^2=7.619$$

(両側検定) $P=0.00742$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

上記の組み合わせ以外は有意差なし。

② 「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)有意なもの

《年齢》	将来に含み	それ以外
20代(244名)	79	165
30代(509名)	125	384

$$\chi^2=5.105$$

(両側検定) $P=0.02838$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《年齢》	将来に含み	それ以外
20代(244名)	79	165
40代(282名)	51	231

$$\chi^2=14.360$$

(両側検定) $P=0.00017$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《年齢》	将来に含み	それ以外
20代(244名)	79	165
50代(99名)	12	87

$$\chi^2=14.824$$

(両側検定) $P=0.00013$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《年齢》	将来に含み	それ以外
30代(509名)	125	384
40代(282名)	51	231

$$\chi^2=4.394$$

(両側検定) $P=0.04004$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《年齢》	将来に含み	それ以外
30代(509名)	125	384
50代(99名)	12	87

$$\chi^2=7.343$$

(両側検定) $P=0.00812$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《年齢》	将来に含み	それ以外
50代(99名)	12	87
60代(26名)	9	17

$$\chi^2=7.452$$

(両側検定) $P=0.01033$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

20代がもっとも高く、40代、50代を底として、60代は将来に含みを持つ者が多い傾向が認められた。

20代 vs. 30代、20代 vs. 40代、20代 vs. 50代、30代 vs. 40代、30代 vs. 50代、50代 vs. 60代の間
に有意差が認められた。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《年齢》	1-3の合計 1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4と5の合計 4. 賛同できない 5. 理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
20代(248名)	94.8	2.0	1.6	4(1.6)
30代(519名)	91.5	4.2	2.3	10(1.9)
40代(300名)	86.3	5.0	2.7	18(6.0)
50代(108名)	83.3	4.6	3.7	9(8.3)
60代(27名)	85.2	3.7	7.4	1(3.7)
無回答(38名)	65.8	10.5	5.3	7(18.4)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く]については、どの年齢層間でも有意な差は認められなかった。

(5) へき地医療・地域医療に関する卒前教育の経験別(単位：%)

a) 単純集計

《卒前教育の経験》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
あり(461名)	12.4	54.9	24.5	1.3	2.0	2.8	10(2.2)
なし(650名)	7.7	59.8	20.6	1.5	2.6	2.6	33(5.1)
わからない(117名)	7.7	54.7	26.5	3.4	4.3	1.7	2(1.7)
無回答(12名)	8.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	4(33.3)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について2群で分析

《卒前教育の経験》	総合診療指向	それ以外	$\chi^2=5.943$ (両側検定) P = 0.01744 有意水準5%で有意 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]
あり(451名)	57	394	
なし(617名)	50	567	

地域医療・へき地医療の卒前教育を受けた医師は、総合診療を指向する割合が有意に高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《卒前教育の経験》	将来に含み	それ以外	$\chi^2=1.632$ (両側検定) P = 0.21204 有意差なし [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]
あり(451名)	113	338	
なし(617名)	134	483	

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位：%)

《卒前教育の経験》	1-3の合計 1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4と5の合計 4. 賛同できない 5. 理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
あり(461名)	91.8	3.3	2.8	10(2.2)
なし(650名)	88.2	4.2	2.6	33(5.1)
わからない(117名)	88.9	7.7	1.7	2(1.7)
無回答(38名)	58.3	8.3	0.0	4(33.3)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《卒前教育の経験》	賛同できる	賛同・理解できない	$\chi^2=0.754$ (両側検定) P = 0.42809 有意差なし [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]
あり(438名)	423	15	
なし(600名)	573	27	

(5') 交絡因子としてのE大学 へき地医療・地域医療に関する卒前教育の経験別(単位：%)

a) 単純集計

《卒前教育》	《出身大学》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答
あり(461名)	E大学(99名)	19.2	41.4	29.3	0.0	2.0	6.1	2.0
	それ以外(349名)	10.0	59.0	23.8	1.7	1.4	2.0	2.0
	無回答(13名)	23.1	46.2	7.7	0.0	15.4	0.0	7.7
	合計(461名)	12.4	54.9	24.5	1.3	2.0	2.8	2.2
なし(650名)	E大学(5名)	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(618名)	7.4	60.5	20.9	1.6	2.4	2.6	4.5
	無回答(27名)	11.1	44.4	14.8	0.0	7.4	3.7	18.5
	合計(650名)	7.7	59.8	20.6	1.5	2.6	2.6	5.1
わからない(117名)	E大学(2名)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(107名)	7.5	55.1	27.1	3.7	3.7	0.9	1.9
	無回答(8名)	0.0	50.0	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	合計(117名)	7.7	54.7	26.5	3.4	4.3	1.7	1.7
無回答(12名)	それ以外(7名)	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
	無回答(5名)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0
	合計(12名)	8.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	33.3
全体(1240名)		9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	4.0

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計) E大学・それ以外に分類

E大学	総合診療指向	それ以外
卒前教育あり(97名)	19	78
卒前教育なし(5名)	1	4

$$\chi^2=0.0005$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学以外	総合診療指向	それ以外
卒前教育あり(342名)	35	307
卒前教育なし(590名)	46	544

$$\chi^2=1.621$$

(両側検定) P = 0.22776 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

卒前教育あり・なしで分類

《卒前教育あり》	総合診療指向	それ以外
E大学(97名)	19	78
E大学以外(342名)	35	307

$$\chi^2=6.129$$

(両側検定) P = 0.01561 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《卒前教育なし》	総合診療指向	それ以外
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	46	544

$$\chi^2=1.015$$

(両側検定) P = 0.33826 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

大学別の分析で卒前教育の有無で有意差が消失し、教育ありの群でE大学とE大学以外の間に有意差あり。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2 と 4-6 の合計) E大学・それ以外

E大学	将来に含み	それ以外
卒前教育あり(97名)	29	68
卒前教育なし(5名)	1	4

$\chi^2=0.224$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

E大学以外	将来に含み	それ以外
卒前教育あり(342名)	83	259
卒前教育なし(590名)	129	461

$\chi^2=0.712$
 (両側検定) $P=0.41794$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

卒前教育あり・なしで分類

《卒前教育あり》	将来に含み	それ以外
E大学(97名)	29	68
E大学以外(342名)	83	259

$\chi^2=1.260$
 (両側検定) $P=0.29133$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒前教育なし》	将来に含み	それ以外
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	129	461

$\chi^2=0.010$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

「将来に含み」については、卒前教育の有無、大学による違いは認められなかった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《卒前教育》	《出身大学》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答
		1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
あり(461名)	E大学(99名)	89.9	2.0	6.1	2.0
	それ以外(349名)	92.8	3.2	2.0	2.0
	無回答(13名)	76.9	15.4	0.0	7.7
	合計(461名)	91.8	3.3	2.8	2.2
なし(650名)	E大学(5名)	100.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(618名)	88.8	4.0	2.6	4.5
	無回答(27名)	70.4	7.4	3.7	18.5
	合計(650名)	88.2	4.2	2.6	5.1
わからない(117名)	E大学(2名)	100.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(107名)	89.7	7.5	0.9	1.9
	無回答(8名)	75.0	12.5	12.5	0.0
	合計(117名)	88.9	7.7	1.7	1.7
無回答(38名)	それ以外(7名)	85.7	14.3	0.0	0.0
	無回答(5名)	20.0	0.0	0.0	80.0
	合計(12名)	58.3	8.3	0.0	33.3
全体(1240名)		89.3	4.2	2.6	4.0

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

E大学	賛同できる	賛同・理解できない
卒前教育あり(91名)	89	2
卒前教育なし(5名)	5	0

$$\chi^2=0.112$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学以外	賛同できる	賛同・理解できない
卒前教育あり(335名)	324	11
卒前教育なし(574名)	549	25

$$\chi^2=0.638$$

(両側検定) P = 0.48402 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

卒前教育あり・なしで分類

《卒前教育あり》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(91名)	89	2
E大学以外(335名)	324	11

$$\chi^2=0.285$$

(両側検定) P = 0.74380 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《卒前教育なし》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(5名)	5	0
E大学以外(590名)	549	25

$$\chi^2=0.228$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

賛同 vs. 「賛同・理解できない」については、卒前教育の有無、大学による違いは認められなかった。

(6)へき地勤務の経験別(単位：%)

a) 単純集計

《へき地勤務》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
経験あり(548名)	11.9	53.5	23.0	2.0	2.2	3.5	22(4.0)
経験なし(677名)	7.4	61.0	22.6	1.5	2.7	1.9	20(3.0)
無回答(15名)	13.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	7(46.7)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について2群で分析

《へき地勤務》	総合診療指向	それ以外
経験あり(548名)	65	461
経験なし(677名)	50	607

$$\chi^2=7.501$$

(両側検定) P = 0.00749 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

へき地勤務の経験を持つ医師では、総合診療指向のものが有意に高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《へき地勤務》	将来に含み	それ以外
経験あり(548名)	126	400
経験なし(677名)	153	504

$$\chi^2=0.072$$

(両側検定) P = 0.83625 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合(単位：%)

《へき地勤務》	1-3の合計 1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4と5の合計 4. 賛同できない 5. 理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
経験あり(548名)	88.3	4.2	3.5	22(4.0)
経験なし(677名)	91.0	4.1	1.9	20(3.0)
無回答(15名)	46.7	6.7	0.0	7(46.7)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《へき地勤務》	賛同できる	賛同・理解できない
経験あり(507名)	484	23
経験なし(644名)	616	28

$$\chi^2=0.0238$$

(両側検定) P = 0.42809 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

(6') 交絡因子としてのE大学へき地勤務の経験別(単位: %)

a) 単純集計

《へき地勤務》	《出身大学》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答
あり(548名)	E大学(93名)	17.2	47.3	28.0	0.0	2.2	5.4	0.0
	それ以外(436名)	10.3	55.3	22.2	2.5	2.1	3.0	4.6
	無回答(19名)	21.1	42.1	15.8	0.0	5.3	5.3	10.5
	計(548名)	11.9	53.5	23.0	2.0	2.2	3.5	4.0
なし(677名)	E大学(11名)	36.4	9.1	36.4	0.0	0.0	9.1	9.1
	それ以外(638名)	6.7	62.5	22.7	1.6	2.2	1.7	2.5
	無回答(28名)	10.7	46.4	14.3	0.0	14.3	3.6	10.7
	計(677名)	7.4	61.0	22.6	1.5	2.7	1.9	3.0
無回答(15名)	E大学(2名)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	それ以外(7名)	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3
	無回答(6名)	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3
	計(15名)	13.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	46.7
全体(1240名)		9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	4.0

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計) E大学・それ以外に分類

E大学	総合診療指向	それ以外
へき地勤務あり(93名)	16	77
へき地勤務なし(10名)	4	6

$$\chi^2=2.999$$

(両側検定) P = 0.09994 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学以外	総合診療指向	それ以外
へき地勤務あり(416名)	45	371
へき地勤務なし(622名)	43	579

$$\chi^2=4.897$$

(両側検定) P = 0.03066 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

へき地勤務あり・なしで分類

《卒前教育あり》	総合診療指向	それ以外
E大学(93名)	16	77
E大学以外(416名)	45	371

$$\chi^2=2.940$$

(両側検定) P = 0.11015 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《卒前教育なし》	総合診療指向	それ以外
E大学(10名)	4	6
E大学以外(622名)	43	579

$$\chi^2=15.65$$

(両側検定) P = 0.00406 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学の中ではへき地勤務の有無で差がなかったが、E大学以外ではへき地勤務経験を持つ医師の方が総合診療を指向する医師の割合が高かった。

へき地勤務経験ありの群でE大学とE大学以外の間に有意差は認められなかったが、経験なしの群では、E大学のほうが有意に総合診療を指向する医師の割合が高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2 と 4-6 の合計) E大学・それ以外

E大学	将来に含み	それ以外
へき地勤務あり(93名)	26	67
へき地勤務なし(10名)	4	6

$\chi^2=0.634$

(両側検定) P = 0.47173 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

E大学以外	将来に含み	それ以外
へき地勤務あり(416名)	97	319
へき地勤務なし(622名)	145	477

$\chi^2=0.0000041$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

へき地勤務あり・なしで分類

《へき地勤務あり》	将来に含み	それ以外
E大学(93名)	29	68
E大学以外(416名)	83	259

$\chi^2=0.893$

(両側検定) P = 0.35024 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《へき地勤務なし》	将来に含み	それ以外
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	129	461

$\chi^2=1.521$

(両側検定) P = 0.25679 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

「将来に含み」については、へき地勤務の有無、大学による違いは認められなかった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《へき地勤務》	《出身大学》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答
		1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
経験あり(548名)	E大学(93名)	92.5	2.2	5.4	0.0
	それ以外(436名)	87.8	4.6	3.0	4.6
	無回答(19名)	78.9	5.3	5.3	10.5
	計(548名)	88.3	4.2	3.5	4.0
経験なし(677名)	E大学(11名)	81.8	0.0	9.1	9.1
	それ以外(638名)	92.0	3.8	1.7	2.5
	無回答(28名)	71.4	14.3	3.6	10.7
	計(677名)	91.0	4.1	1.9	3.0
無回答(15名)	E大学(2名)	50.0	0.0	0.0	50.0
	それ以外(7名)	71.4	14.3	0.0	14.3
	無回答(6名)	16.7	0.0	0.0	83.3
	計(15名)	46.7	6.7	0.0	46.7
全体(1240名)		89.3	4.2	2.6	4.0

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く E大学・それ以外

E大学	賛同できる	賛同・理解できない
へき地勤務あり(88名)	86	2
へき地勤務なし(9名)	9	0

$\chi^2=0.209$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

E大学以外	賛同できる	賛同・理解できない
へき地勤務あり(403名)	383	20
へき地勤務なし(611名)	587	24

$\chi^2=0.626$
 (両側検定) $P=0.43505$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

へき地勤務あり・なしで分類

《へき地勤務あり》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(88名)	86	2
E大学以外(403名)	383	20

$\chi^2=1.221$
 (両側検定) $P=0.39584$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《へき地勤務なし》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	129	461

$\chi^2=0.368$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

賛同 vs. 賛同・理解できないについては、へき地勤務の有無、大学による違いは認められなかった。

(7) 出身大学別(単位: %)

a) 単純集計

《出身大学》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
A大学(207名)	3.4	58.9	20.3	5.3	3.9	2.9	11(5.3)
B´大学(70名)	8.6	61.4	18.6	2.9	1.4	1.4	4(5.7)
C´大学(98名)	8.2	65.3	15.3	1.0	3.1	4.1	3(3.1)
D大学(178名)	9.0	59.0	23.6	1.1	1.7	1.7	7(3.9)
E大学(106名)	19.8	42.5	28.3	0.0	1.9	5.7	2(1.9)
その他(528名)	9.8	58.5	24.8	0.9	1.7	1.9	12(2.3)
無回答(53名)	13.2	41.5	13.2	0.0	9.4	3.8	10(18.9)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

注) B´大学およびC´大学はそれぞれB臨床研修病院とC臨床研修病院の地元にある大学

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について各出身大学で分析

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
B´大学(66名)	6	60

$\chi^2=3.189$
(両側検定) P = 0.09823 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
C´大学(95名)	8	87

$\chi^2=3.078$
(両側検定) P = 0.09326 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
D大学(171名)	16	155

$\chi^2=5.203$
(両側検定) P = 0.02971 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=22.18$
(両側検定) P = 0.00001 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
その他(516名)	52	464

$\chi^2=7.911$
(両側検定) P = 0.00558 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
C´大学(95名)	8	87

$\chi^2=0.022$
(両側検定) P = 1.00000 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
D大学(171名)	16	155

$\chi^2=0.003$
(両側検定) P = 1.00000 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=3.725$
(両側検定) $P=0.08345$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
その他(516名)	52	464

$\chi^2=0.063$
(両側検定) $P=0.83486$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
C´大学(95名)	8	87
D大学(171名)	16	155

$\chi^2=0.065$
(両側検定) $P=0.82861$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
C´大学(95名)	8	87
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=5.526$
(両側検定) $P=0.02593$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
C´大学(95名)	8	87
その他(516名)	52	464

$\chi^2=0.249$
(両側検定) $P=0.71066$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
D大学(171名)	16	155
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=6.520$
(両側検定) $P=0.01180$ 有意水準5%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
D大学(171名)	16	155
その他(516名)	52	464

$\chi^2=0.075$
(両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
E大学(104名)	21	83
その他(516名)	52	464

$\chi^2=8.525$
(両側検定) $P=0.00503$ 有意水準1%で有意
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

E大学は、A大学、C´大学、D大学、その他との間で有意に「総合診療指向のもの」が多かった。
A大学は、D大学、E大学、その他とくらべて有意に「総合診療指向のもの」が少なかった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
B'大学(66名)	13	53

$\chi^2=0.089$
 (両側検定) $P = 0.86206$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
C'大学(95名)	15	80

$\chi^2=1.292$
 (両側検定) $P = 0.27486$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
D大学(171名)	42	129

$\chi^2=0.507$
 (両側検定) $P = 0.50783$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=2.050$
 (両側検定) $P = 0.15823$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
その他(516名)	131	385

$\chi^2=1.210$
 (両側検定) $P = 0.28365$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
C'大学(95名)	15	80

$\chi^2=0.022$
 (両側検定) $P = 0.53308$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
D大学(171名)	42	129

$\chi^2=0.632$
 (両側検定) $P = 0.49449$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=1.789$
 (両側検定) $P = 0.20801$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
その他(516名)	131	385

$\chi^2=1.018$
 (両側検定) $P = 0.36507$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
C'大学(95名)	15	80
D大学(171名)	42	129

$\chi^2=2.791$
 (両側検定) $P = 0.11874$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
C'大学(95名)	15	80
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=4.837$
 (両側検定) $P = 0.4106$ 有意水準5%で有意
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
C´大学(95名)	15	80
その他(516名)	131	385

$\chi^2=4.064$
 (両側検定) $P=0.4924$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
D大学(171名)	42	129
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=0.614$
 (両側検定) $P=0.48017$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
D大学(171名)	42	129
その他(516名)	131	385

$\chi^2=0.465$
 (両側検定) $P=0.83998$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
E大学(104名)	30	74
その他(516名)	131	385

$\chi^2=0.539$
 (両側検定) $P=0.54015$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

E大学は、C´大学とくらべて有意に「将来の総合診療に含み」が多かった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《出身大学》	1-3の合計 1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4と5の合計 4. 賛同できない 5. 理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
A大学(207名)	82.6	9.2	2.9	11(5.3)
B'大学(70名)	88.6	4.3	1.4	4(5.7)
C'大学(98名)	88.8	4.1	4.1	3(3.1)
D大学(178名)	91.6	2.8	1.7	7(3.9)
E大学(106名)	90.6	1.9	5.7	2(1.9)
その他(528名)	93.2	2.7	1.9	12(2.3)
無回答(53名)	67.9	9.4	3.8	10(18.9)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

注) B'大学およびC'大学はそれぞれB臨床研修病院とC臨床研修病院の地元にある大学

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
B'大学(65名)	62	3

$$\chi^2=1.781$$

(両側検定) P = 0.21206 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
C'大学(91名)	87	4

$$\chi^2=2.572$$

(両側検定) P = 0.16137 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
D大学(168名)	163	5

$$\chi^2=7.033$$

(両側検定) P = 0.00999 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
E大学(104名)	96	2

$$\chi^2=6.059$$

(両側検定) P = 0.01513 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
その他(516名)	492	14

$$\chi^2=16.00$$

(両側検定) P = 0.00017 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B'大学(65名)	62	3
C'大学(91名)	87	4

$$\chi^2=0.004$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B'大学(65名)	62	3
D大学(168名)	163	5

$$\chi^2=0.380$$

(両側検定) P = 0.68896 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B´大学(65名)	62	3
E大学(98名)	96	2

$\chi^2=0.871$
(両側検定) $P = 0.38848$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B´大学(65名)	62	3
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.681$
(両側検定) $P = 0.42778$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
C´大学(91名)	87	4
D大学(168名)	163	5

$\chi^2=0.355$
(両側検定) $P = 0.72398$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
C´大学(91名)	87	4
E大学(98名)	96	2

$\chi^2=0.851$
(両側検定) $P = 0.43060$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
C´大学(91名)	87	4
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.700$
(両側検定) $P = 0.50004$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
D大学(168名)	163	5
E大学(98名)	96	2

$\chi^2=0.211$
(両側検定) $P = 0.71793$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
D大学(168名)	163	5
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.020$
(両側検定) $P = 1.00000$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(198名)	96	2
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.168$
(両側検定) $P = 0.75714$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

A大学は、E大学、その他にくらべて、賛同・理解できないとの回答が有意に多かった。